

しがの花木を訪ねて

42期園芸学科 A

チーム名：A I U

赤枝進、岩本敬二、上田留市

(蓮尾秀俊、谷川敬二)

1. はじめに

1-1 現状把握

- 滋賀県は、琵琶湖を中心に周囲を山や緑に囲まれ、全国的に見ても自然豊かで、植物の生育に適しているのみならず、園芸の研究・実践の参考になる植物園・公園等や、特定の花木を育成されている寺社等も少なからずある。まずは、この恵まれた環境を把握し再確認することから始めることにした。

1-2 目的・目標の設定

- 園芸学科に学ぶ一員としては、植物・花木に関して授業で学んだ知識を幅広く有効利用できるように、実際に県下の花木の現場に足を運び、現状を確認・再調査し、分野ごとに整理し、その特性を理解・分析することにより、今後の関連調査・研究の一助になるような資料にしたいと考えた。

2. 調査の進め方

- 1) 滋賀県内の代表的な花木の群生地、植物園・公園、寺社・仏閣等をピックアップ、リスト化し、現地調査のため花木生育地・施設の実在地と現地までのルート調べる。
- 2) 対象となる花木を開花季節ごとに調査し分類し、同時期に一緒に現地調査できるものを集めグループ化し、グループ員同士で参加可能日程を調整し計画表を作成する。
- 3) 開花時期に合わせた日程が全員で調整できない時は、調整可能なメンバーが分散して行動することも可とし、特定の行先のみでの参加メンバーも同行可とする。
- 4) 現地までの交通機関は臨機応変で、車以外に自転車等の利用も積極的に検討する。
- 5) 現地での現物写真撮影を必ず行い、詳細情報については関連資料の収集に合わせて、現地の関係者からのヒヤリング等を積極的に行い、総合的にとりまとめる。

3. 調査対象花木・場所の選定

滋賀県内の花木のある代表的な「植物園・公園」「寺社・仏閣」「群生地その他」をリストアップし、次のリストに基づき調査を実施した。

1) 植物園・公園

- ・びわ湖大津館イングリッシュガーデン（バラ）／大津市
- ・滋賀農業公園ブルーメの丘（チューリップ、バラ、ヒマワリ）／日野町
- ・庄堺公園（バラ）／彦根市 ・ローザンベリー多和田（バラ）／米原市
- ・草津市立水生植物公園みずの森（ハス、スイレン）／草津市
- ・近江妙蓮公園（ハス）／守山市 ・弥生の森歴史公園（ハス）／野洲市
- ・もりやま芦刈園（アジサイ）／守山市
- ・日野ダリヤ園（ボタン、シャクヤク、ダリヤ）／日野町

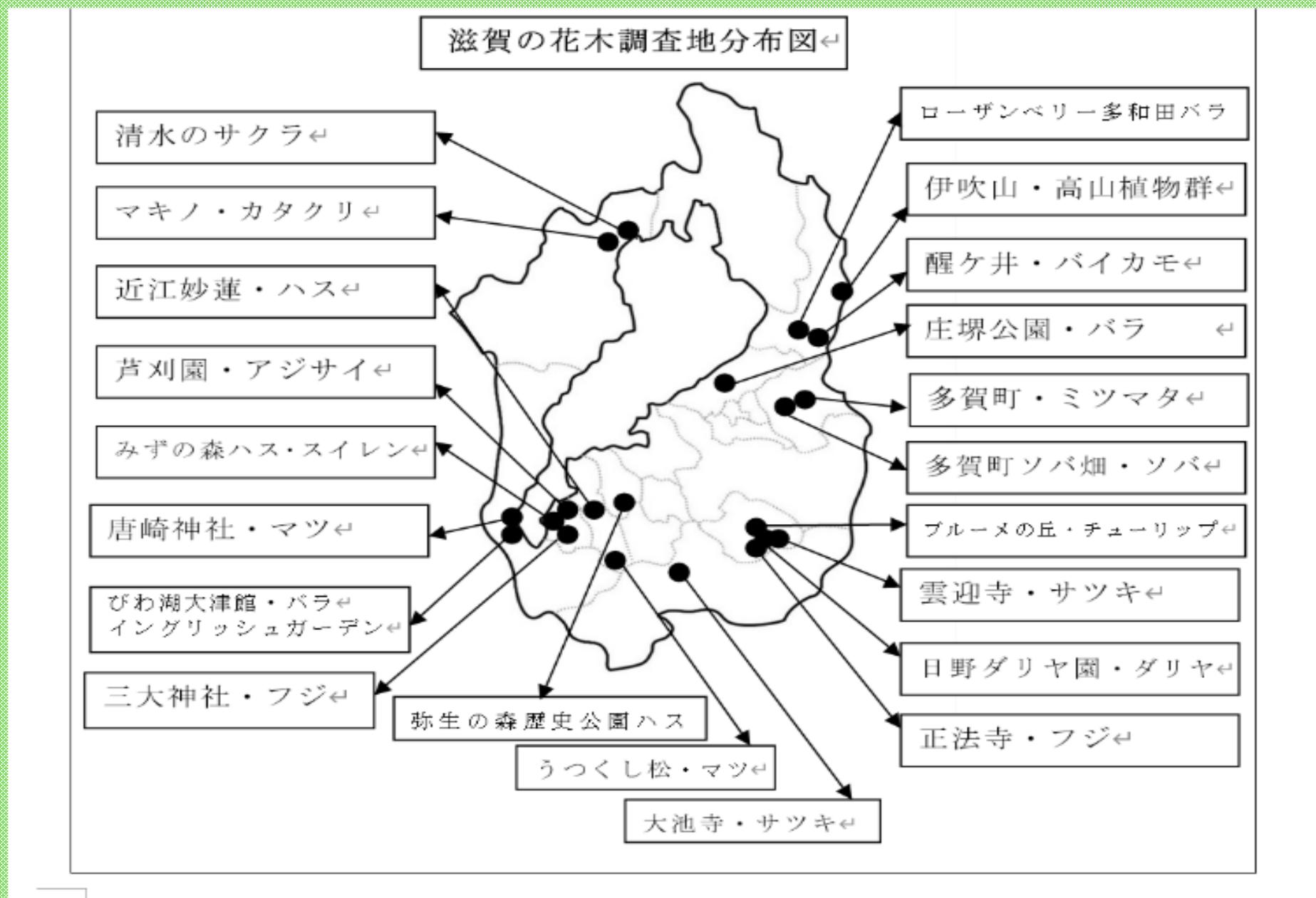
2) 寺社・仏閣

- ・三大神社（フジ）／草津市 ・正法寺（フジ）／日野町
- ・唐崎神社（マツ）／大津市 ・大池寺（サツキ）／甲賀市水口町
- ・雲迎寺（サツキ）／日野町 ・百済寺（ミツマタ）／東近江市

3) 群生地その他

- ・マキノピクランド（カタクリ、メタセコイア、コブシ）／高島市
- ・清水の桜（サクラ）／高島市 ・シャクナゲ溪（ホンシャクナゲ）／日野町
- ・うつくし松自生地（ウツクシマツ）／湖南市 ・醒ヶ井（バイカモ）／米原市
- ・伊吹山（山頂お花畑）（シモツケソウ、イブキジャコウソウ等）／米原市
- ・多賀町（ミツマタ） ・多賀町そば畑（ソバ）、飯盛木（ケヤキ）／多賀町

滋賀の花木調査地分布図



調査・学習内容報告

◎カタクリの開花状況（4月3日）

○カタクリ（ユリ科） 学名 *Erythronium japonicum* Decne

マキノピックランド内にて、カタクリの花の開花状況を調査した。当初、近くにあった自生のカタクリ園を探したが、既に閉鎖されており、ピックランド内に移植して管理・公開していることが判った。カタクリはユリ科カタクリ属の多年草で、早春に地上に姿を現し開花期間は群落で2週間程度と短く、ニリンソウ等と共に「スプリング・エフェメラル」（春の妖精）と呼ばれている。種子で繁殖するが、発芽から開花まで8～9年ほどかかる。種子がアリに拾われることによって生育地を広げるとのこと。かつては、球根から片栗粉が作られていたことはよく知られている。



カタクリの花



カタクリ園案内

◎「清水の桜」の開花状況調査（4月3日）

○エドヒガン(アズマヒガン)(バラ科のサクラ)、学名:*Cerasus itosakura* var. *itosakura* f. *ascendens*(標準)、*Cerasus itosakura*(広義)

「清水（しょうず）の桜」は海津大崎から北へ約1km、海津の墓地の中にある1本の老樹のことで、樹種はアズマヒガンザクラ（別名エドヒガン）で樹齢300年以上といわれ、水上勉の小説「桜守」の中でも賞賛されていて、加賀藩前田侯が上洛の折、何度もこの桜を愛でたことから「見返りの桜」とも呼ばれている。和名由来の「エド」「アズマ」は関東地方のヒガンザクラ（彼岸桜）の意味で、海津大崎のソメイヨシノより少し早く満開見頃を迎え、4月3日の時点では少し盛りを過ぎていたが、花色は淡紅色でソメイヨシノより濃い色が特徴である。



清水の桜全景



墓地の中の説明文

◎鎌掛谷（かいがけだに）ホンシャクナゲ群落の開花状況調査（4月6日）

○ホンシャクナゲ（本石楠花）（ツツジ科）学名：*Rhododendron japonoheptamerum* var. *hondoense*）

滋賀県日野町のシャクナゲ溪の「鎌掛谷（かいがけだに）ホンシャクナゲ群落」は昭和6年（1931）に国の天然記念物に指定された群生地で、周囲の常緑樹が生い茂り、保全対策検討委員会により平成5年から平成24年まで数次にわたりアカマツ等の常緑樹の枝透かしや立ち枯れ木の除伐等が実施されているが、近年の温暖化等の影響で花の着きが年々減少する傾向が見られる。関係者の方からも管理の難しさがあるとお聞きしたが、今年も花数は少なかった。



日野町のホンシャクナゲ1



日野町のホンシャクナゲ2

◎ブルーメの丘「チューリップ畑」(4月20日) (参考「ヒマワリ畑」8/16) の開花状況調査
○チューリップ(ユリ科) (英名:tulip) (和名:鬱金香:うこんこう) 球根で繁殖
(形態は有皮鱗茎)。学名:*Tulipa* L. (日本での栽培は*Tulipa gesneriana*)

◎「ブルーメの丘」は滋賀県日野町の酪農をテーマとした体験型農業公園で、年間を通して「花(ドイツ語でブルーメ)」に溢れる園内で自然を体感できる。メインのお花畑は、チューリップ、ヒマワリ、コスモスと季節に合わせて植え替えされ、他にもバラ等の花壇もあり、ヨーロッパの田舎町を訪れたような気分になれる。作業の方から雑草や花柄の処理と植替え作業が大変とお聞きした。



ブルーメの丘チューリップ畑



ブルーメの丘ヒマワリ(8月)

◎「フジ」三大神社（草津）（4月30日）、正法寺（日野）（5月8日）の開花状況調査
○フジ（別名ノダフジ）（マメ科）（藤、学名：*Wisteria floribunda*）

◎「三大神社」は草津市志那町にあり、毎年4月下旬から5月上旬にかけて、穂が地面に擦るほど（約2メートル近く）長くなることから「砂擦りの藤」と呼ばれ、滋賀県指定自然記念物にも指定された古藤（樹齢は伝承約400年）が開花することで知られている。今年にはコロナ対策のため駐車場も閉鎖されていた。

◎「正法寺（しょうぼうじ）」（日野）は臨済宗妙心寺派の禅寺で本尊は十一面観世音菩薩。鎌掛（かいがけ）の藤の寺として知られているが、境内のフジは第一世住職「普存禅師」が300年以上前に京都の仙洞御所から移されたノダフジで正法寺山の呼び名を取って「後光藤」と呼ぶようになったと伝えられている。



三大神社



正法寺

◎「バラ」：「びわこ大津館」「庄堺公園」「ローザンベリー多和田」の開花状況調査

○バラ（薔薇、学名：*Rosa*）は（バラ科）の総称。またはそのうち特に園芸種を総称する。低木または木本性のつる植物で、葉や茎に棘を持ち、花は5枚の花びらと多数の雄蕊を持つ（園芸種では大部分が八重咲きである）。北半球の温帯域に自生していたがヨーロッパで園芸品種として改良され多品種化された。

◎「イングリッシュガーデン・びわこ大津館」は旧びわ湖ホテルのびわこ大津館に隣接する約5,900㎡の広大な敷地にあり、四季折々の花々が植えられ、特にバラの種類が多く、合計300種、総数約3,000株で構成されているフレグランスローズガーデンがあり、オールドローズからモダンローズまで楽しむ。当日は、小雨のにもかかわらず雨にもかかわらずガーデン内コンサートが開かれていた。（5月22日）



◎「庄塚公園」は彦根市管理の公園で、芝生広場、バラ園、花しょうぶ園などがあり、中でもバラ園は、約2,000平方メートルの大きな広さがあり、約78種類、1200本余りのバラが植栽されている。春はオールドローズや、つるバラなどの品種が多く、近くの市民の方が散歩がてらに多数散策していた。（5月19日）



◎「ローザンベリー多和田」(米原市)は、2003年に13,000㎡の庭に、元々あった木々や植物を大切に残しながら、周りの環境との調和も考え、7つのエリアのガーデンが作られ開園された。中でもローズガーデンと宿根草の庭は、美しいバラたちが彩るガーデンで、イギリス製アンティークレンガとオブジェの中に、約60種・180株の美しいバラが植栽されている。(5月19日)



◎「サツキ」：「大池寺」の開花状況調査（5月31日）

○「サツキ」（ツツジ科）（皐月、杜鵑、学名：*Rhododendron indicum*）はツツジ科ツツジ属に分類される。

◎「大池寺」（甲賀市）は、臨済宗妙心寺派の寺院で、寺名は行基が作った4つの大きな溜め池「心字（しんじ）の池」に因んでいるとのこと。本尊の釈迦如来は甲賀三大仏の一つである。庭園（蓬萊の庭）は、サツキの大刈込み鑑賞式枯山水で、江戸時代に小堀遠州が作庭し、書院の正面の2段大刈込みは海の大波小波を表し、砂の上に宝船を浮かべた姿を表現し、様々な刈込みで七福神が乗っている様子を表現していると言われている。



◎「アジサイ」：「芦刈園」の開花状況調査（6月17日）

○「アジサイ」（アジサイ科）（紫陽花、学名：Hydrangea macrophylla）

◎「もりやま芦刈園」（守山市）『もりやま芦刈園』は、地域の特性を生かした水辺に親しめる公園として開園し、「守山市シルバー人材センター」が管理運営に当たっている。園内にはヨーロッパから集めた西洋あじさい50品種5000本と日本あじさい50品種5000本が植栽されていて、その他にも花ショウブ、ボタンなどもあり、四季を通じて花が楽しめる。近年の温暖化の影響か、苗木の生育がだんだん難しくなり、少しずつ減少傾向がみられる。



アナベル



ダンスパーティー

◎「松」：「唐崎神社」（5月22日）、「美し松」（5月31日）の開花状況調査

○「マツ」（マツ科）（松、学名：*Pinus*）はマツ属の常緑高木の総称。

◎「唐崎神社」（大津市唐崎）は日吉大社の摂社で境内には633年に植えたのが最初という「唐崎の松」があり、歌川広重が描いた「唐崎の夜雨」で近江八景に選ばれ、芭蕉の「辛崎の松は花より朧にて」の句でも有名。日吉大社によると、初代の松は1581年に大風で倒れ、1591年に植えた2代目の松も1921年に枯れ、樹勢が衰えた1887年に植えた実生のクロマツが現在の3代目で、樹齢約130年、直径125cmの巨大な霊松となったが、その後約130年の間に自然災害での折損等で幹内部が空洞化し、2017年頃より急激に衰え半分を切断したため、2019年2月に親木「唐崎霊松」から枝（穂木）を採取し、接ぎ木増殖に成功した3本を2020年2月に里帰りさせたとのことである。



◎**ウツクシマツ（美し松、学名 *Pinus densiflora* f. *umbraculifera*）**とは、根元近くから幹が放射状に分かれて上方へ伸び、剪定された庭木のような樹形をもつアカマツの変種である。

○「**美し松**」は、マツ科の常緑針葉高木であるアカマツの天然品種で、幹は根元近くから箒状に立ち、樹冠は傘形、葉先は平である。庭園や公園に植栽されるタギョウショウ（多行松）は似ているが、枝の角度や樹冠の広がりや針葉の硬さも違う。その優美な姿から「美し松」と呼ばれ1921年国の天然記念物に指定されたのは、自然状態で交配を重ね自生地を形成している**湖南省平松美松山の「ウツクシマツ自生地」**のみである。天然記念物に指定されたエリアには幼木から樹齢300年超の老木が生育しているが、近年、急速にマツ枯れが進んでおり、地元住民による保護活動や湖南省により保護保全対策が行われている。



◎「ハス」：「みずの森」「大賀蓮」「近江妙蓮」の開花状況調査（7月15日）

○「ハス」（ハス科）（蓮、学名：*Nelumbo nucifera*）は、インド原産のハス科多年性水生植物。地下茎は「蓮根」（れんこん、はすね）という。

◎「水生植物公園みずの森」は、代表的な水生植物であるハスやスイレンを中心に、さまざまな水生植物と出会えるユニークな植物園である。一年中を通して熱帯・温帯性の水生植物が見られる温室のあるテーマ施設「ロータス館」を備え、四季を通じていつでも花や植物が楽しめるのが特徴である。なお、4～5年前まで、隣接する琵琶湖岸（赤野井湾）に有名なハスの群生地があったが、1～2年で壊滅的に消失してしまった。原因調査がされて土壌の酸欠とか温暖化の影響とか諸説出たが残念ながらいまだに不明で再生の見込みも立っていない。



◎「**弥生の森歴史公園・大賀蓮**」野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館）の敷地にある「弥生の森歴史公園」では、二千年ハスといわれる古代のハス「大賀ハス」を栽培している。このハスは2000年以上もの長い間、地中に埋もれ、眠り続けていたハスの種子が蘇生・発芽し、開花したものである。

◎「**近江妙蓮**」近江妙蓮公園（守山市）慈覚大師が唐から持ち帰ったと伝えられる「近江妙蓮」はインドを起源とする突然変異種で、滋賀県の天然記念物に指定されており、守山市の市花にもなっている。近江妙蓮は、蕊がなく花弁（花）だけでできていて、つぼみのときは一つの花に見えるが外側の花弁が開いた後の花びらは2,000～5,000枚にも達する。一茎に2～12の花群が見られ、2週間～20日程度咲き続け、数千枚の花弁を残したまま枯れてしまい、種子ができないので地下茎（レンコン）でのみ増えるのが特徴。600年以上も前から、田中家代々によって受け継がれて来た。明治時代以降、68年間開花しない時期もあったが、ハス博士の大賀一郎氏によって蘇り今日に至っている。



大賀ハス



近江妙蓮



◎「バイカモ（梅花藻）」醒ヶ井（米原市）の開花状況調査（7月31日）

○「バイカモ（梅花藻）」、*Ranunculus nipponicus* var. *submersus*）は、キンポウゲ科キンポウゲ属の多年草の水草でイチョウバイカモの変種のひとつ。水温年間約14度前後の川の水底に群生し初夏から初秋にかけてウメの花のような白い花を水中につける。葉は濃緑色で分裂し、流れに沿って50cm～1mほどに伸びる。静水では育たず水槽での生育も困難。山菜として食用にもなる。

◎醒井（米原市）（地名「醒井」JR駅名「醒ヶ井」読み方は「さめがい」）は、古代からの交通の要衝で、ヤマトタケル伝説のある『古事記』『日本書紀』の「居醒井」（いざめのいずみ）等が地名の由来とされ、関ヶ原の東山道（中山道）の往還に位置し、霊仙山からの豊富な湧水が休憩場所に最適で、醒井宿は中山道の宿駅となった。醒井の地蔵川は居醒の清水から湧き出ており、大変珍しい水中花「梅花藻」で有名。水温は年間を通じて14度ほどと安定し、貴重な淡水魚の「ハリヨ」も生息し、清水は平成の名水100選にも選ばれている。



◎「伊吹山・高山植物群（お花畑）」の開花状況調査（7月31日）

○「高山植物」（こうざんしょくぶつ）とは、一般には森林限界より高い高山帯に生えている植物のことだが、広義には亜高山帯に生育する植物や高山帯に固有の植物を高山植物と言う。植物の活動が夏に限られるため、ほとんど全種が同じ時期に花をつけ、一面に花が並ぶようすを「お花畑」とよぶ。

伊吹山は、滋賀県、岐阜県にまたがる標高1,377mの滋賀県最高峰の山で琵琶湖国定公園に指定され日本百名山にも選定されている。植物分布としては石灰岩層で環境条件などの要因で植物相が豊かで、牧野富太郎らの植物学者や採薬師の調査でも植物の種類が多い山とされている。山麓から山頂にかけて野草の群生地があり、コイブキアザミなどの9種の固有種がある。おもなものとしてカノコソウ、クガイソウ、シモツケソウ、ニッコウキスゲ、ハクサンフウロ、メタカラコウ、ルリトラノオなどがある。サラシナショウマ群落、シモツケソウ群落、イブキジャコウソウ群落、などが季節ごとのお花畑となる。2003年に「伊吹山頂草原植物群落」が国の天然記念物に指定された。



◎多賀町「ソバ畑」(10月11日)「ミツマタ」(4月6日)
百済寺「ミツマタ」(4月6日)の開花状況調査

○ソバ(タデ科)(蕎麦、学名 *Fagopyrum esculentum*)は、タデ科ソバ属の一年草。擬穀類(疑似穀類)と呼ばれる。日本では主に種子を製粉して蕎麦粉として利用し、それを用いた麺(蕎麦)や蕎麦がき等を食用にする。

○ミツマタ(三桠)(ジンチョウゲ科)、学名: *Edgeworthia chrysantha* ミツマタは、冬になれば葉を落とす落葉性の低木であり3月~4月頃にかけて、三つ又(また)に分かれた枝の先に黄色い花を咲かせることから「ミツマタ」と呼ばれ、その皮が和紙や紙幣の原料として用いられる。

ソバ畑(多賀町)



ミツマタの群生(多賀町)



ミツマタ(百済寺)



4. まとめ

- 新型コロナによる緊急事態宣言の期間を挟み、植物園や公共施設が閉園になるなどする期間が続き、最初の計画通りの活動が制限されたが、でき得る範囲で最善を目指した。また生きた植物相手の調査活動がメインのため、長期・短期の気候条件や、当日の天候状況次第での変更が必要となり、開花期に合わせる日程調整に苦労したが、通期で見るとほぼ当初の目的地を訪問できた。
- 感想としては、やはり温暖化の影響が表れているのか、全体的に例年より花の着きが悪くなっているように感じた。それもここ数年徐々に顕著になってきていると思われ、世界的な温暖化対策が急務になっている。他にも動物（鹿や外来種動物等）による食害増加の問題もあり、フェンスや柵の設置等の対策も行われているが充分ではないようだ。
- 国や自治体による天然記念物指定や保護指定等もあり、不要な灌木伐採や外来種植物や雑草の除去事業や、ボランティア活動による保護活動も行われているが、追い付いていないようである。
- いずれにしても、短期での解決は難しいので、今後も現状調査ウォッチングを続けながら、地道でもSDGsの精神で、持続可能な取り組みを、各方面で多面的に続けて行くしかないと思われる。

5. 参考文献

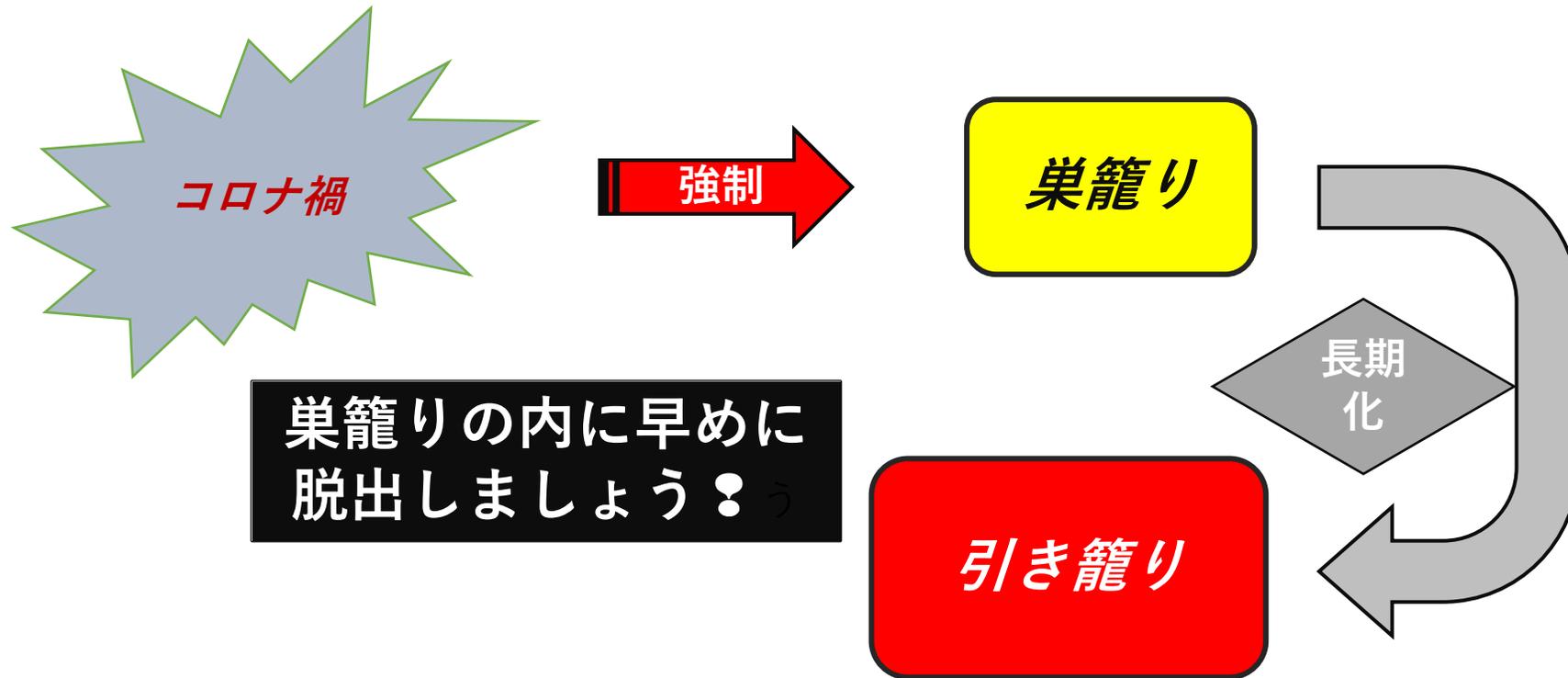
- 必ず訪れたい全国魅惑の植物園完全ガイド / 47都道府県花風景百科
- 散歩で楽しむ花の本 / 桜ブック / バラ大百科 / ときめく薔薇図鑑
- 滋賀の巨木めぐり / 花蓮品種図鑑 / フリー百科事典『ウィキペディア』
- びわこ検定ガイドブック / 滋賀の環境2020（令和2年版環境白書）

しがの花木を訪ねて

【番外；回(快)遊お誘い編】

出掛けよう春の光に魅かれて

自然の中へ



巣籠りとは？	強制的に交流・接触を遮断される	回復の自力が有る
引籠りとは？	自ずから交流・接触を閉ざす	自力での回復は、ほぼ不可能

内閣府発表引籠り推計数（平成30年度）：61.3万人

令和3年4月8日（木）晴後にわか雨：

マキノ町（ピックランド）カタクリ園に於いて

※高島市及びマキノ町は天然記念物に指定していません



偶然に見つけた

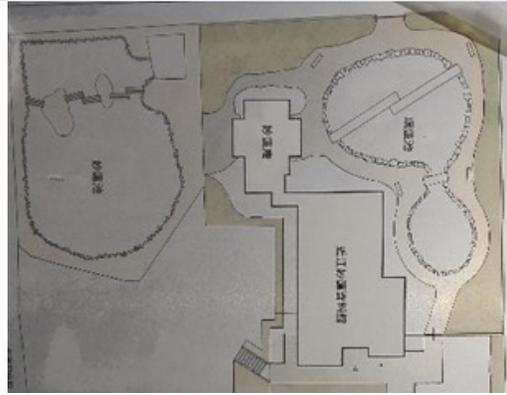
『**7枚花被片**のカタクリの花』

※突然変異



一般的な6枚花被片のカタクリの花

令和3年7月15日（曇時々晴）妙蓮公園の蓮を訪ねて



妙蓮公園の見取り図



資料館の正面玄関の写真
向かって右（西）が瑞蓮池
// 左（東）が妙蓮池



東側の妙蓮池
（あちらこちらで開花しています）



西側の瑞蓮池
（蕾は有るが、葉の下です）

令和3年7月31日（土）：晴一時にわか雨 バイカモを訪ねて



地蔵川の源流湧水口

- ・湧水故に流れの温度はほぼ一定の約14°C前後
- ・湧水故に養分は湧水口ではほぼ無い。周囲の生活排水に依っている



街道の家屋様式に合わせた
特製消火用具箱



- ・流れが緩やかで、花は水面上に
- ・下流に行くほど花は大きくなる傾向に

令和3年4月30日（金）：曇 草津市三大神社の『砂擦りのふじ』を訪ねて



『砂擦りのふじ』と、
およそ420年生きる古木の株元

凡そ10年育てた我が家の藤、終ぞ
花を付けることはなかった？
『何故？』。疑問を解消すべく
「砂擦りのふじ」の樹木医さんに
会いに出掛けたが、コロナ禍で
空振りに終わる。しかし、・・・



我が家の、今も残る藤の枯れ幹

令和3年5月25日 曇時々晴後にわか雨 崇福寺跡を訪ねて



この山道は大津から京都に抜ける
東海道自然歩道です

さあ春です 

しがの花木を訪ねて

**出掛けよう春の光に魅かれて
自然の中へ**

出掛けのルールは守ってね！